協力隊を支援する
やまがた地球家族の会

平成２３年５月３１日発行　第９号

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY

Wikimedia Commons : アガマトカゲ

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌　VOL.9

小さなハート proj.「女性のためのお店と会議室建設プロジェクト」報告

2010 年３月、アフリカ西部のベナン共和国に「小さなハートプロジェクト」として、当会から 20 万円、山形青年海外協力協会と個人からの 10 万円の合計約 30 万円を支援しました。村落開発普及員として派遣されていた本県出身の青年海外協力隊員・大竹舞さんからの申請に応えたものです。

その資金を活用して実施された「女性のためのお店と会議室建設プロジェクト」について、６月に報告書が届きました。

派遣先アブランクーには数十の女性グループがあり、お店と会議室を作ることで、女性グループの存在や商品を外部に広報し、活動のモチベーションを上げ、グループ同士の情報交換を促進。彼女たちの所得が向上し、健康面や子どもの教育の改善に繋げることを目的とするプロジェクトです。

大竹さんは地元 NGO「コザップ財団」と協力して、材料調達や職人との交渉に奔走。３月から６月の３ヶ月間、カルチャーギャップに悩みながらも、熱意と工夫で完成にこぎ着けました。女性たちの活動の場として、この施設が末永く活用されることを願います！

◆大竹さんから感謝のことば

今回の女性グループのためのお店と会議室の建設が実現し、協力者 NGO も女性グループも心から喜んでいます。『５年後、１０年後も残る活動を』をテーマに協力者の NGO とは何度も議論を重ねましたが、この建物の利用が何年も続き女性グループ活動の手助けになることをみな望んでいます。ご協力いただき本当にありがとうございました。

※ プロジェクトの概要は次頁

中高生エッセイコンテスト 入賞おめでとう！

★文部科学大臣奨励賞

「モンゴルに灯った光プロジェクト」古瀬世那（県立東根工業高）

★審査員特別賞

「アロイスが教えてくれた事」田中瑛さん（米沢市立第三中）

★ NPO 法人山形県青年海外協力協会会長賞

「緑に囲まれた生活を守るために」山口百香さん（飯豊町立飯豊中）

★入選

「心にボランティアの木を」高橋結衣さん（県立楯岡高）

★佳作

「助け合いの輪」相澤雄さん（県立楯岡高）

「広がる思い」西村七瀬さん（県立楯岡高）

「世界とのつながりと私の将来」村上奈未さん（山本学園高）

★学校賞

長井市立長井北中、県立酒田商業高
県立谷地高、県立楯岡高、県立米沢商業高

エッセイコンテスト表彰

「青年海外協力隊参加者を地元企業の力に」第５回企業懇談会を開催！

平成 22 年 11 月 24 日（水）午後、山形市遊学館において第５回企業懇談会を開催しました。今回のテーマは「青年海外協力隊　参加者を地元企業の力に」。これまで県内の４地区で開催してきて一巡し、再び山形市へ。

帰国報告会では、シニア海外ボランティアとして活躍された小松正和さん（パラオ共和国）、仙道富士郎さん（パラグアイ共和国）が発表。活発な意見交換も行われました。

その後の懇談では参加企業の方々から積極的な発言も頂き、現職派遣と帰国後の就職への期待が高まりました。

ＪＩＣＡでは青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティアの各事業に対して、現在企業に在籍する方々にも参加してもらえるよう、企業への補てん制度を設けています。その制度を活用しながら「社員の夢をかなえ、自信をつける機会を提供し、それぞれの社員の人間力を高める」ことは企業の活力を高める一つの方法ではないでしょうか。↗

当会では県内企業の皆さんと連携しながら、活力のある地域づくりに貢献したいと考え、引き続き懇談会を開催していく予定です。

《第５回企業懇談会プログラム》

1．国際協力活動と人材育成
2．国際協力活動体験報告
　小松　正和 氏、仙道 富士郎 氏
3．現職参加の推進について
4．青年海外協力隊を地元企業の力にする方法
5．参加者意見交換

「女性のためのお店と会議室建設プロジェクト」概要

▼期間：
　2010 年 3 月 17 日開始～ 2010 年 6 月 11 日終了
▼プロジェクト参加者：
　女性グループメンバー（有志）
　協力者現地 NGO（Fondation　KOZAP）
　依頼した建設業者（煉瓦職人、配筋工、型枠工）
　協力隊員
▼送金された金額：1,429,645FCFA（約 28 万円）
▼実際にかかった費用：1,589,700FCFA（約 31 万円）
▼建設物内容：
　7.5 平方メートルの部屋（お店用）
　12 平方メートルの部屋（会議用）
▼場所：協力者 NGO のオフィス内敷地
▼主な手順
　1．材料の調達（鉄、セメント、砂、小石など）
　2．土台を作る
　3．壁の組み立て
　4．天井の組み立て
　5．天井の支えの棒を外し、表面の仕上げ
　6．ドア、窓の取り付け

～山形県へ要望書を提出～

平成 22 年 8 月 20 日（金）、高橋山形県副知事と当会の酒井会長、斎藤副会長、富樫事務局長、佐藤顧問、仙道顧問、ＪＩＣＡ東北の小野支部長など９名が懇談しました。協力隊経験者を山形県の採用に取り入れて頂くための要望書を提出しました。

ボランティア家族連絡会を開催！

平成 23 年 2 月 19 日（土）、山形県国際交流センター研修室にて JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト表彰式・帰国報告会・ボランティア家族連絡会を開催しました。

エッセイコンテストでは、全国からの７万点以上の作品から多数の入賞（１面に受賞者リスト）。

渡辺藍さん（カンボジア・日本語教師・短期派遣）、石垣小百合さん（スリランカ・青少年活動）のお２人による帰国報告では、現地での活動が生き生きと伝わってきました。

その後、派遣中のボランティアのご家族が懇談。JICA や関係機関からは現地での治安や健康管理、帰国後の進路などについて情報提供。参加者同士での交流を含めて、ご家族の不安の軽減に役立つイベントとなりました。

寄稿 協力隊訓練所レポート

22年度４次隊としてインドネシアに派遣された金子愛里さんが、訓練所での２ヶ月に及ぶ訓練の途中でレポートして下さいました。３月中旬に訓練が終了し、３月末に出国。まずジャカルタに入って、１ヶ月ほどの語学研修を受けた後、５月にロンボク島の環境省関連機関に着任。２年間の協力隊生活がスタートを切りました。

福島県・二本松青年海外協力隊訓練所（NTC）に入所してあっという間に１ヶ月が経ち、65日間の訓練の半分が過ぎました。NTCでの生活は語学の勉強が中心です。私は22年度４次隊でインドネシアの環境局に派遣される予定で、毎日５時間のインドネシア語の授業を受けています。

訓練中は、20歳～70歳の、職種も経歴もバラバラの百人以上が共同生活を送ります。朝７時の国旗掲揚とラジオ体操に始まり、語学の授業や国際理解などの講義を受け、夜はそれぞれに自由な時間を過ごしています。

地元の人の話では今年は特に雪が多かったそうで、訓練所は今、雪の中に埋もれています。九州・四国など雪の降らない地域出身者が「カマクラを作ったことがない」と言うので、みんなでカマクラ作りをしました。途上国のほとんどが雪のない国なので、雪があるからこそ生まれたカマクラなど日本の冬の文化も紹介できたらと願っています。

訓練所は磐梯朝日国立公園内にあり、決して便利な場所ではありませんが、30分歩けば岳（だけ）温泉があり、そこにコンビニもあります。岳温泉の方々は訓練所のことをよく知っておられ、週に一度の休日に温泉街で食事をすると、帰りは訓練所まで車で送ってくれたり、夜10時の門限を超えないように「時間だよー」と声を掛けてくれたりと面倒を見て下さいます。

食事は１日３食ボリュームたっぷり、ついつい食べ過ぎてしまいます！太らないよう、ラジオ体操の後に毎朝体育館を10周走ることを日課にしています。

ここで出会った仲間たちと過ごせるのも、あと１ヶ月。有意義な訓練生活にしたいなぁと思っています。

２２年度４次隊　金子愛里

▼世界各国から励ましのメッセージ

東日本大震災に対して、世界各国から心あたたまる応援・お見舞いメッセージが届いています。JICAの在外事務所や国内拠点を通じて寄せられたその数、100以上の国々から3000件以上。必見です！

http://www.jica.go.jp/information/disaster_msg/

《平成２２年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期　日	事　業
５月２９日	定例総会／事業報告、決算報告、事業計画、予算の承認、帰国報告
６月　１日	２２年度１次隊　表敬訪問並びに壮行 ― ボリビア、ウガンダ、ヨルダン、モザンビーク／４名
９月１３日	２２年度２次隊　表敬訪問並びに壮行 ― ウガンダ、ヨルダン、中国（シニア）、トンガ（シニア）／４名
１１月２４日	青年海外協力隊参加者を地元企業の力に 村山地域の企業、商工会議所、県、ハローワークの参加　於：遊学館（山形市）
１２月１３日	２２年度３次隊　表敬訪問並びに壮行 ― ケニア、ニジェール／２名
２月１９日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会、　国際協力エッセイコンテスト受賞者の作文朗読 カンボジア、スリランカの派遣隊員による帰国報告　於：霞城セントラル（山形市）
３月	２２年度４次隊　出発 ― ニジェール（2名）パラオ、インドネシア、チュニジア（シニア）／5名　※震災のため表敬は中止

※ ５月２９日―第８号機関紙発行、育てる会のカレンダーの作成並びに会員への送付

山形出身 OV 写真展開催中！

平成 23 年 6 月 1 日～ 29 日、協力隊 OV の東海林美紀さんの写真展「アフリカの色彩」が、故郷・鶴岡市の致道博物館で開催されます。展示準備の合間を縫ってインタビューさせて頂きました。

◆どんな子ども時代でしたか？

小学生の頃、人道支援団体がアフリカで活動している写真を見て、「将来はアフリカで働きたい」という憧れを抱くようになりました。

◆学生時代の思い出は？

バックパッカー旅行でアジアや中米・カリブの国に行き、現地の人々や世界中から来ていた旅人とのたくさんの出会いがありました。特にメキシコに惹かれ、何度も通いました。また、アイスランドと文化交流を行う学生サークルに参加していたので、アイスランドにもどっぷりつかっていた学生時代でした。

◆協力隊を志すキッカケは？

大学に入ってからも「将来はアフリカで働きたい」という思いは変わらず、国際協力ＮＧＯでインターンをしながら国際保健医療協力について勉強していました。そのなかで、アフリカで現地の人々と同じ目線で暮らしながら働ける場として、協力隊に参加しました。

◆派遣先での活動内容や印象は？

ニジェール共和国の診療所と現地ＮＧＯに配属されました。診療所では乳幼児健診のアシスタント業務を行い、現地ＮＧＯではＨＩＶ／エイズと共にいきる人々のケアや収入向上活動のサポート、ＨＩＶ予防啓発イベントの企画などを行いました。また、政府、市民組織、民間企業、ミュージシャンと連携してのＨＩＶ／エイズ予防啓発コンサートを企画し、実施しました。ボランティアという、フレキシブルな活動ができる身分を最大限に活かせた２年間だったと思います。灼熱の太陽のしたで鮮やかな衣装に身を包みながら生活する人々は生命感に溢れていて、とても美しく、写真を本格的に撮り始めました。

◆今後の活動は？

これからも写真を通して世界の人々の暮らしと文化を伝えていきたいと思います。それと同時に、日本、特に地元である東北のヒト・食・農業・伝統工芸などの文化を発信していきたいと考えています。

◆子ども達にメッセージを！

いろいろなことに興味をもって動いてみると、何かが見えてくると思います。

＊東海林美紀さん

1984 年山形県藤島生まれ。2005 年より２年間 JICA ボランティアとして西アフリカに位置するニジェール共和国でエイズ対策に取り組む。現在は世界の人々の暮らし、文化、旅をテーマに撮影取材を行っている。国際協力 NGO ジョイセフにフォトグラファーとして所属し、途上国の女性を取り巻く問題に関する撮影、広報活動に携わっている。

■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』入会のご案内

【会費】 ●個人会員＝3000円 ●家族会員＝1000円（個人会員の家族）
●学生会員＝ 1000 円 ●団体会員＝ 10000 円（企業及び団体）

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える！「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料 5000 円のところ、希望する会員には 2000 円の送付手数料のみで 1 年間 12 冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族　VOL.9　平成２３年５月３１日発行（第９号）　発行人／酒井忠久

発行／〒 999-7725 山形県庄内町沢新田 151 富樫方　『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局
TEL&FAX) 0234-42-1458（富樫）　E-mail) info@chikyukazoku.net　Website) http://www.chikyukazoku.net/